

教祖140年祭  
三年千日の  
活動方針

「教祖のひながたを目標に  
全教会心定めの達成」  
めどう

## ◇4月 教祖誕生祭・婦人会総会◇

1人でも多くの方をお誘いして『おぢばがえり』  
教祖にお喜びいただきましょう。  
〈空港送迎バスのご案内は5ページをご覧ください〉

## ◇春の学生おぢばがえり◇

学生さん♪ 3月28日は おぢばに集合！  
式典・直属アワー・お楽しみ行事  
～あなたが変わる・人生が変わる～  
※対象：高校生・大学生・大学院生・専門学校生

## ◇5月斯道会別席強化月間◇

斯道会別席：5月25日～26日



大教会の HP がご覧になれます！

月報には掲載されない写真もいっぱいです！

ぜひ一度ご覧下さい♪

網走月報

発行所  
天理教網走大教会  
布教部出版広報掛  
〒093-0073  
網走市北3条西6丁目  
TEL 0152-43-2227  
FAX 0152-44-2227

## 大教会二月月次祭

大教会2月の月次祭は、12  
日午前9時30分から大教会長  
祭主のもと、執行された。

大教会長は祭文で、親神様  
の御守護に御礼申し上げた後、  
「祭典終了後ありがたくも本  
部学生担当委員会委員・松森  
芳夫先生を講師として、学生  
層育成者講習会をつとめさせ  
て頂きます。御本部より頂戴  
するおぢばの理を、網走に繋

## 学生層育成者講習会



松森 芳夫 先生

2月12日祭典終了後、引き  
続き参拝場にて「学生層育成  
者講習会」を、本部学生担当  
委員会委員・松森芳夫先生（高  
岡大教会・内子分教会所属）  
を迎え開催された。

がる者一同にお流し下さいま  
すこと心より御礼申し上げま  
す。私共教会長をはじめよう  
ほく一同は諭達にお示し頂く  
真柱様の思いを、年祭実動報  
告として形に移し、仕上げる  
大切な時句に勇んで伏せ込ま  
せて頂く所存でございます。」  
と奏上した。

は宝だと思う。それに対して  
私たちは、もっともつと心を  
配って、まっすぐに育つ道を  
誤りなく示唆してやらなければ  
ならないと思うのでありま  
す。」と、若者を育成するこ  
との大切さと道の若者への期  
待をお話頂いています。

前真柱様は、道の若者につ  
いてこのようにお話されてい  
ます。「夏のこともおぢばが  
えり、また、学生生徒修養会  
春の学生会の集いなど、ここ  
何年も続けておりますが、こ  
の若い人たちの将来を考える  
時に、いますぐに道の御用の  
上には間に合わないかもしれ  
ませんが、長い長い将来を考  
えると、この人たちにかける  
期待をもって言うならば、ど  
れだけ心を配っても配りきれ  
ないほど大切なこの人たちは  
宝だと思ふ。この子たち

まずアンテナを張るところ  
から育成は始まると思います。  
二年前の学生担当者大会の  
表統領先生のお話の中で「親  
から子、子から孫へと縦の伝  
道をする中で、学生の役割  
は親の信仰を受け継ぐという  
こと、すなわち、親の信仰か  
ら自分自身の信仰に切り替え  
ること。縦の伝道を考えたこ  
きの学生の役割である」とお  
話を頂きました。学生層の年  
代が、親の信仰から自分の信  
仰に切り替わるチャンスが大  
きいと思います。また、成人



おちばがえりに誘うのも学生生徒修養会に誘うのも、それはおたすけだと思わねばなりません。ただ「行つて下さい」「受けて欲しい」と言うのはおたすけではないのです。自分の責任を果たしたい自分勝手な思いを遂げたいということだけで半分以上ほこりの心なのです。受講や参加を呼びかけるというのはおたすけなのです。おちばがえりや学生生徒修養会に誘う時は、おたすけ心をもち二回、三回、四回と声をかけていきましよう。』と聞かせて頂きました。おふでさきに「なさけないとのよにしゃんしたとても人をたすける心ないので」とあります。おたすけ心を持ち何度も声をかけたならば、教祖にお働き頂き、私たち自身も大きな喜びに繋がると思います。

最後の四つ目のポイントが「おちばで育つ」です。おちばはたすかるところであり、どこよりも心を育てて頂ける場所です。おちばに帰り、教祖にお喜び頂き、おちばの理を頂くことでその人はたすかり育つのだと思います。

今の教内の様子を見ますと、おちばの学校に進学する学生も減っています。それだけ、おちばで教えに触れる人が少なくなるということは、親の信仰から自分の信仰へとすることが難しくなるのではないかと思います。そうした意味でも、おちばの行事に参加をして頂きたいのです。

三月には大学生を対象に「学生生徒修養会大学の部」また高校卒業生を対象に「学修高校卒業生コース」が開催されます。大学の部は、毎年テーマを設け、そのテーマに沿ったプログラムを構成し、おちばの温もりに浸かって教祖の教えに触れて少しずつ心を開いていき、最後には、みんなが泣いて笑って本当に特別な時間を過ごします。

今年の大学の部のテーマは「おやさま　心の拠り所」です。人生の転換期である大學生が、これから悩んだり誰かに助けを求めたい時に、教祖のご存在が心の拠り所になつてほしいというのが今回のテーマです。

このおちばでの五日間は、教祖について学び、教祖のこ

とを考え、教祖を思い過ごして頂きます。ぜひ、たくさんの大学生に参加してほしいオスメのプログラムです。

そんな学修大学の部が三月四日から八日まで四泊五日で泊三日で三月十日から十二日まであります。どうか旬を逃さないで声かけをして親里で学ぶ機会を学生に伝えて頂きたいと思います。以上、育成をする上での私が思います四つのポイントをお話しさせて頂きました。

最後になりますが、昨年の秋季大祭で真柱様は、「三年千日の期間は、動かして頂くことが大切であります。一生懸命取り組んで、年祭の当日、おちばへ帰って来ても来なくても、その日を嬉しい心で迎えることができるように、まだ三分の一残っている三年千日を勇み心を奮い起こしてお通り下さるようお願いしたい」とお話し頂きました。

この三年千日の残り一年を、将来の道の宝である若者に、教祖のようばくへと育つてもらいたいと思います。四つのポイントを実行していくこと

が私たちの将来の大きな喜びにつながると思います。

今後とも、学生層育成の上にご理解・ご協力を賜りますようお願い申し上げます

よろいびセミナー

今回の研修で、知っている教理もありましたが、改めて思い出させて頂いたこと、初めて聞かせて頂いて勉強になったことなどがあり、自分の生活を見直すきっかけとなりました。

練り合いでは、それぞれで天理教に対する知識や思いが違うため、より一層気付かせて頂ける点が多かったように感じました。

今回の研修会は、教会に生まれ、これまで無意識に当たり前にやってきたことを体系的に学べる良い機会になったと思います。また、個人によって解釈や優先度、伝え方などが異なることも多いと思いますので、客観的な視点で話が

聞けたのも良かったと思います。

受講前後では一つ一つの行動に対する意識が一番の変化かと思っています。個人的にはひのきしんとおつとめのものの意味、意義が理解できたことで、一つ高い意識で勤められるようになったと感じています。

研修内容も大変興味深いお話でしたが、脱線した先生方の体験談も興味深い内容が多かったので、今後お話を伺える機会があると嬉しいです。

私はこの研修会に参加し、生まれ変わったような心持ちでいます。と言いますのは、第一講の藤山先生が仰っていた「心を開くことによって素直になり、素直になることで神様の教えがスツと入ってくる」ということに始まり、自分の素直さを見つめ直す期間であったからです。

私はこれまで、素直ではなかったかも知れません。誰かの施しに抵抗を感じたり、人の意見を聞かなかったこともあります。しかし、栗沢分

の旬である年祭活動の今がまさに大きな旬だと思います。それでは若者に対して、どのように働きかけをするか。私は、若者の育成をする上で大事なポイントが四つあると思います。一つ目は「共に育つ」。二つ目は「節の中で育つ」。三つ目は「日々の声かけで育つ」。そして四つ目が「おちばで育つ」であります。一つ目の「共に育つ」ですが、真柱様は、『次代を担う、若い人たちを育てるということは、にをいがけ・おたすけだと思ふ。にをいがけおたすけの心でやらなければできないと思う』とお話頂いています。

教会の子弟や信者さんの子供は、教会で育っているから神様の近くでいるから何もしなくても自然と信仰を受け継いでくれるだろうと思ひ込んでいる部分があると思います。そうではなく、にをいがけ・おたすけの心でしっかりと教えを言葉で伝え行動で表し、直接声をかけていくことが大切だと思います。

真柱様は、私たち育成者が育つことの大切さを次のよう

にお話し頂いています。「人を育てるには、育てる側の強い意志がなければなりません。そして何よりも、育てる者の心の置き所が問われます。どのような人に育てたいのか、何を伝えたいのか、あやふやなことでは、育てられる側も困惑するのであります。まず、育てる立場の者が、教祖の親心に近づかせて頂かなければならないのであります。育てる者が育つことによって、初めて人を育てられるのであります」と。まず、育てる立場の私たちが教祖のお心に近づかせて頂く努力が必要だということです。

本年の学生担当委員会の活動方針は「教祖を慕い、ひながたを辿る喜びを、共に味わおう」です。慕うとは「尊敬して見習おうとすること。一緒にいたくてあとを追うこと」という意味です。教祖百四十年祭に向かうこの旬に、まずは先に道を歩む私たちが教祖を慕い、「教祖、教祖」と、教祖に近づかせて頂く努力が必要だと思っています。

そして学生にも「教祖ならどうなされるだろう」「教祖

ならなんて仰ってくれるだろう」と、困ったときには教祖に相談をしながら道を歩ませてもらえれば間違いないんだよということを伝えさせて頂き、教祖のひながたこそ陽気ぐらしへのただ一つの道筋であり陽気ぐらしの教科書なんだということをこの年祭活動の旬に少しでも知ってほしいと思います。

どんな中も明るいお心で通られた教祖のひながたを、私たち育成者が忘れずに通ることを意識して、学生に映していく事が大切だと思います。

続きまして、育成の上で二つ目の大事なポイントは「節の中で育つ」ということだと思います。思春期や、学生時代には、必ず人生の大きな壁、節というものを一度はお見せ頂くと思います。親の信仰から自分の信仰へと切り替わる時旬が来るということです。私は、育成者が彼らにどのよう

に心をかけどのように接するかでその子の将来は大きく変わり、この道を通るか離れるかの大切な旬を逃さない声かけが大事だと思います。

続きまして、育成の上で二つ目の大事なポイントは「節の中で育つ」ということだと思います。思春期や、学生時代には、必ず人生の大きな壁、節というものを一度はお見せ頂くと思います。親の信仰から自分の信仰へと切り替わる時旬が来るということです。私は、育成者が彼らにどのよう

メッセーじがだんだんと分かるようになってきます。

また、メッセーじを読める人に相談することも大切だと思います。その節を一人で心を曇らすのではなく、どんな悩みも聞いて下さる教祖がいる。どんなに苦しい時でも続ける親神様がいます。その有り難さに気付くことが二つ目の「節の中で育つ」ということだと私は思います。

三つ目のポイントは「日々の声かけ」です。「声をかけ続ける」ということが大事なことであったと思います。

私たち育成者は、日頃から地道に若者に声をかけ、細めに心を配り続けることが何よりの役目だと思います。若者をようばくに導くには、行事の時だけ声をかける、行事の時だけではなかなかできないと思います。

しかし、この行事になんとか参加して貰いたいという時には「旬を外さない声かけ」が大切ですが、おちばがえりをしてほしい。学生生徒修養会に参加してほしいというだけでは、人の心は動きません。ではどうすればよいのか。





布教部長  
結城和広

教祖百四十年祭まで残り一年というこの旬に、布教部長のお役を頂き、責任の重さを感じています。

大教会では、教祖百四十年祭を目指しての三年千日「教祖のひながたを目標に全教会心定めの達成」を活動方針としてつとめています。最後の一年はこれに加えて、論達第四号の六つの実動項目十万件の達成を目指して、心新たに走り始めたところです。

布教部では、一人でも多くのようばく・信者の皆様が年祭に心を向け、私たちと一緒に動いて下さるよう手助けをさせて頂きたいと思っています。



祭事部長  
藤山重善

祭事部の一番の務めは「おつとめ」です。

大教会長様は月次祭の終わりに、毎月必ず「一番大切なおつとめを、共に勤めて頂き、ご苦労様でした。」とお話されます。

又、教祖は「つとめに、一手の振り方間違えてもよろしくない、このつとめで命の切換するのや、大切なつとめやで。」とおっしゃいました。

この大切なつとめを、おつとめ奉仕者、また参拝者の方々が一つとなり、勇んでつ



会計部長  
栗林徳正

日頃は大会社はじめ、夫々の教会にお心寄せ頂き誠に有難うございます。

皆様方も教祖百四十年祭に向けて実動されている事と思います。私もその一環として夕勤め後、逸話篇を拝読し子供たちに内容を説明させて頂いております。

逸話篇の中には「力くらべ」が、数多く載っております。子供からすると「教祖は神様だから力があるんだね」とい



育成部長  
三幣正志

日頃より育成部活動の上にお力添えを賜り心より御礼を申し上げます。育成部とは、婦人会・青年会・少年会・学生担当委員会の四会を合わせた部であります。

今から九年程前、真柱様は教祖百三十年祭当日のお言葉で「何にも増して道の将来を

| 立教188年 人のご守護 心定め |      |        |    |
|------------------|------|--------|----|
| 初席者              | ようばく | 修養科修了者 | 教人 |
| 51名              | 23名  | 18名    | 6名 |
| 成果 (2月末現在)       |      |        |    |
| 3名               | 3名   | 1名     | 0名 |

担う人材を育成する必要性を強く感じるのです。三年千日の中で蒔いた種が、実を伴うよう努めるとともに、これからの活動の中で、長い目で人を育てる取り組みを始め、陽気ぐらし世界実現への着実な歩みを勇んで踏み出して頂きたい。」とお話し下さいました。

今後とも、このお言葉を活動指針として、四会の合力をもって、一手一つにつとめさせて頂く所存です。

## 新職務分担 各部長挨拶

### 布教部

### 祭事部

### 会計部

### 育成部

## ようき会通信

することで、心を清らかにしたいこうと思います。

教会長夫妻の勧めで今回のこの研修会に参加し、心を開いて素直になることの大切さを学び、実践した結果、この三日間で多くの方と交流でき、笑うことが非常に増えました。

結果として、素直であることは日常において、人との関わりという些細なところでも役に立ち、教会長夫妻の勧めを「素直」に聞いたことは良い選択だったと悟りました。

### 網盛 大山盛太

日々の生活でどう自分と向き合うのかを考えるようになりました。また、何となく行なっていたおつとめを丁寧に



札幌地区ようき会では今回、近くの教会を巡ってみよう会 vol.1 を陽光分教会の協力の中間催させて頂きました。自教会が近くにない方や、他の教会に行つたことがない方もおられると思い、この機会にまずは教会に足を運んで頂きたい、みんなで楽しんでいきたいなと思いをかけさせて頂きました。

神殿掃除や会長さんからのお話、練り合い、おさづけの取り次ぎ合いなどを通して、お道を深めていける実動や学



びを頂き、笑顔溢れる楽しい時間でした。

毎月開催させて頂き、また夏には大きなイベントもさせて頂きたいと思っておりますので、札幌地区にお住まいの方はぜひ参加してみてください。

### 札幌地区ようき会

委員長 八重樫 隆

▼参加者 9名



## トピックス初席

誠綱 田中 雄也（かずや）

誓いの言葉は二人で一緒に言うので読むスピードを合わせるが大変でした。別席のお話は初めて聞く天理教の始まりのお話だったので、とても興味深く聞かせて頂きました。

た。初席、二席とお話下さる先生によって、印象が違いますが、新築に感じられました。

### 誠綱 三浦 玲奈

おぢばへ行つてみて、初めての感じがしなく不思議な感覚でした。また、実際にリアルな建物を見て、事前に説明を聞いてイメージしていたよりも素晴らしいと感じました。

初席は、はじめは聞いたことない言葉が飛び交って海外にいるような感じがしました。一回目と二回目で心に残る部分が違ったのが印象にあります。

話の中で自分のことをまずは満たさないと人のことは助けられないという言葉聞いた時に、自分のことは後回しにしていたことがあり、まずは自分の心の声を聞いて自分を満たしていこうと思いました。



教祖140年祭

## バス運行予定

大教会では4月の教祖誕生祭・婦人会総会に合わせて 閑空と詰所を結ぶ送迎バスを用意致します。

【閑空から詰所】

4月16日  
①閑空 14時30分頃出発  
②閑空 18時30分頃出発  
4月17日  
①閑空 14時30分頃出発

【詰所から閑空】

4月20日  
①詰所 6時30分頃出発  
②詰所 7時30分頃出発  
③詰所 12時30分頃出発  
④閑空 13時30分頃出発

※この時間に合わせて、航空券を手配されると便利です。

教祖140年祭三年千日 最後の一年

さあ！みんなで「おぢば帰り」

4月18日教祖誕生祭  
4月19日婦人会総会

教祖にお喜よろこびいただきましょう。



動 静

出 直

▼直轄所属・小川満智子様は2月22日出直された。享年87歳。葬儀は2月24日みたまうつし、翌25日告別式が大教会にて瀬川定自・直轄世話人斎主のもと執行された。

年 祭

▼直轄所属・池田はるのの霊様50年祭、村上フミの霊様50年祭が2月7日、大教会祖霊殿にて大教会長祭主のもと執行された。

2月人の「守護

○初席者

直 轄 浅 田 心 優 (3名)

○中席者

網 次 安 田 桃 花 (2名)

○おさづけの理拝戴者(2名)

栗 沢 岩 崎 史 也 (1名)

○修養科志願者

網 新 椎 木 勝 (2名)

○おまもり下附願

栗 沢 岩 崎 史 也 (1名)

台 格 お め で と う

▼神奈川県立小田原高等学校

直 轄 瀬 川 幸 志

▼天理大学人文学部心理学科

直 轄 瀬 川 幸 志

▼天理高校1部

旭 網 栗 林 大 喜

網 葉 青 山 将 己

育英会寄付者

釧厚分教会様

(3代、4代会長30年祭)

栗林徳正様(長男高校合格)

栗林大喜様(高校受験御礼)

大教会2月の動き

1日 役員会会議。おはなし食堂

2日 縦の伝道日

3日 節分行事

4日 大教会創立の日

9日 網走支部例会会場

10日 役員会会議

11日 教祖140年祭網走おたすけ委員会会議。育

成部部会

月次祭。学生層育成者講習会。役員会会議。連絡会

教会長夫妻ねりあい。修養科事前研修会よろこびセミナー(15日まで)

縦の伝道日

網走支部婦人会例会

会場

会長、札幌方面信者

まわり(23日まで)

会長、おちばがえり

詰所23会。縦の伝道

日

会長、本部神職奉仕

つとめる

陽気ぐらし講座講師

研修会

本部月次祭遙拝。会

長、教区主事会出席。

結城和広役員、本部

神職奉仕つとめる

会長、かなめ会出席。

藤山重善役員、本部

神職奉仕つとめる

大教会一斉活動日

仕 上 げ の 年

諭 達 の 実 動 十 万 件

1年祭当日をうれいしい心で迎えよう

実動件数

11,267 件

(2月11日現在)

立教188(令和7)年人のご守護成果表 (2月末現在)

| 教 会 名 | 初 席 | 中 席  | ようぼく | 修 卒 | 教 人   | 婦 参 者 |     | 教 会 名  | 初 席 | 中 席  | ようぼく | 修 卒 | 教 人   | 婦 参 者 |     |
|-------|-----|------|------|-----|-------|-------|-----|--------|-----|------|------|-----|-------|-------|-----|
|       |     |      |      |     |       | 当 月   | 累 計 |        |     |      |      |     |       | 当 月   | 累 計 |
| 直 轄   | 1   | 1    |      |     |       | 4     | 12  | 誠 央    |     |      |      |     |       | 2     | 3   |
| 美 幌   |     |      |      |     |       | 1     | 2   | 常 道    |     |      |      |     |       |       | 0   |
| 女 満 別 |     |      |      |     |       | 7     | 11  | 徳 道    |     |      |      |     |       | 2     | 4   |
| 斜 里 町 |     |      |      |     |       |       | 0   | 満 金    |     | 1    |      |     |       |       | 2   |
| 釧 厚   |     |      |      |     |       |       | 3   | 網 安    |     |      |      |     |       |       | 0   |
| 武 士   |     |      |      |     |       | 1     | 2   | オ ホーソク |     |      |      |     |       | 3     | 3   |
| 常 呂   |     |      |      |     |       | 1     | 6   | 網 徳    |     |      |      |     |       |       | 0   |
| 旭 網   |     |      |      |     |       | 2     | 3   | 栗 沢    |     | 6    | 1    | 1   |       | 3     | 5   |
| 御 料   |     | 2    | 1    |     |       | 3     | 3   | 徳 元    |     | 1    | 1    |     |       |       | 3   |
| 東 藻 琴 |     |      |      |     |       |       | 0   | 網 盛    |     |      |      |     |       |       | 1   |
| 陽 光   |     |      |      |     |       | 1     | 2   | 網 新    |     |      |      |     |       | 3     | 4   |
| 呼 人   |     |      |      |     |       | 2     | 2   | 網 葉    |     |      |      |     |       |       | 0   |
| 誠 陽   |     |      |      |     |       | 1     | 1   | 網 陽    |     |      |      |     |       | 1     | 1   |
| 網 栄   |     |      |      |     |       |       | 0   | 誠 網    |     |      |      |     |       | 4     | 7   |
| 實 東   |     |      |      |     |       | 1     | 5   | 網 次    | 1   |      |      |     |       |       | 0   |
| 東 網   | 1   |      |      |     |       | 6     | 6   | 網 昇    |     |      |      |     |       |       | 2   |
| 宗 稚   |     |      |      |     |       | 1     | 2   | 勇 走    |     |      |      |     |       | 2     | 3   |
|       |     |      |      |     |       |       |     | 詰 所    |     |      |      |     |       | 2     | 12  |
| 初 席   | 中 席 | ようぼく | 修 卒  | 教 人 | 婦 参 者 | 当 月   | 累 計 | 初 席    | 中 席 | ようぼく | 修 卒  | 教 人 | 婦 参 者 | 当 月   | 累 計 |
| 当 月   | 成 果 | 当 月  | 成 果  | 当 月 | 成 果   | 当 月   | 成 果 | 当 月    | 成 果 | 当 月  | 成 果  | 当 月 | 成 果   | 当 月   | 成 果 |
| 3     | 3   | 5    | 11   | 2   | 3     | 1     | 1   |        |     |      |      |     |       | 53    | 110 |

春 季 大 祭 2/12(水)

| 〈参拝者数 約80人〉             |                                                 |                           |                                             |                         |                         |                         | 祭 主 | 祭 員 | 祭 典 | 役 割 |
|-------------------------|-------------------------------------------------|---------------------------|---------------------------------------------|-------------------------|-------------------------|-------------------------|-----|-----|-----|-----|
| 神 殿 講 話                 | 賛 者                                             | 指 図 方                     | 扨 者                                         | 扨 者                     | 扨 者                     | 扨 者                     |     |     |     |     |
|                         | 村 井 岩 田 奥 三 澤 野 中 澤 直 治 春 雄 実 繁 繁 雄             | 結 城 和 広                   | 小 瀬 川 篤 志                                   | 瀬 川 定 自                 | 大 教 会 長                 | 大 教 会 長                 |     |     |     |     |
| 胡 三 味 琴 弓 線             | 小 太 拍 ち ゃ ん 子 ば 鼓 ね 鼓 木 ん                       | 地 方                       | て を ど り                                     |                         |                         |                         |     |     |     |     |
| 丸 瀬 山 田 川 山 田 城 山 田 裕 子 | 大 三 栗 九 澤 結 山 幣 林 山 田 城 山 田 裕 子                 | 青 三 瀬 山 幣 林 山 田 城 山 田 裕 子 | 藤 三 大 教 会 長 善 正 信 人                         | 細 新 川 教 会 長 善 正 信 人     | 大 教 会 長                 | 大 教 会 長                 |     |     |     |     |
| 三 藤 幣 山 城 美 代 真 和 子 理 子 | 桐 小 結 小 菅 遠 谷 針 城 松 原 田 善 敏 和 篤 明 眞 広 文 広 志 宏 明 | 田 瀬 在 中 川 原 陽 道 繁 一 彌     | 大 三 山 清 三 斎 藤 山 澤 崎 水 幣 藤 由 泰 美 篤 信 正 芳 志 徳 | 眞 三 栗 三 安 新 幣 幣 林 幣 田 川 | 眞 三 栗 三 安 新 幣 幣 林 幣 田 川 | 眞 三 栗 三 安 新 幣 幣 林 幣 田 川 |     |     |     |     |
| 桐 新 瀬 谷 川 沙 千 也 穂 祐 加 子 | 藤 三 村 眞 岩 奥 井 澤 井 壁 原 野 広 春 正 直 志 雄 実 教 繁 治     | 遠 清 永 藤 水 井 浩 知 康 二 幸 幸   | 眞 三 栗 三 安 新 幣 幣 林 幣 田 川                     | 眞 三 栗 三 安 新 幣 幣 林 幣 田 川 | 眞 三 栗 三 安 新 幣 幣 林 幣 田 川 | 眞 三 栗 三 安 新 幣 幣 林 幣 田 川 |     |     |     |     |